令和６年度

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問１

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とするものである。

ｂ　医薬品の使用は、保健衛生上のリスクを伴うことに注意が必要である。

ｃ　医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。

ｄ　医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問２

医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものはどれか。

１　少量の投与であれば、長期投与されたとしても慢性的な毒性が発現することはない。

２　医薬品の効果とリスクは、用法と作用強度の関係に基づいて評価される。

３　動物実験により求められる５０％致死量（LD_{50}）は、薬物の毒性の指標として用いられる。

４　ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的にGood Laboratory Practice（ＧＬＰ）が制定されている。

問３

いわゆる「健康食品」と呼ばれる健康増進や維持の助けになることが期待される食品（以下「健康食品」という。）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　「栄養機能食品」は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的としたものである。
ｂ　健康食品であっても、誤った使用方法や個々の体質により健康被害を生じた例が報告されている。
ｃ　健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることはない。
ｄ　「機能性表示食品」は、身体の生理機能などに影響を与える機能成分を含むもので、個別に国の審査を受け、許可されたものである。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問４

セルフメディケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　セルフメディケーションの推進には、地域住民の健康相談を受け、一般用医薬品の販売や必要な時は医療機関の受診を勧める業務が欠かせない。
ｂ　セルフメディケーションを的確に推進するため、一般用医薬品の販売等を行う登録販売者には、一般用医薬品等に関する正確で最新の知識を常に修得する心がけが望まれている。
ｃ　適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、条件を満たした場合にスイッチＯＴＣ医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除する制度が導入された。
ｄ　少子高齢化の進む社会では、地域包括ケアシステムなどに代表されるように、自分、家族、近隣住民、専門家、行政など全ての人たちで協力して個々の住民の健康を維持・増進していくことが求められる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	正
４	誤	正	正	正
５	正	正	正	正

問５

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　副作用は、眠気や口渇等の比較的よく見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々であるが、どのような副作用であれ、起きないことが望ましい。

ｂ　副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として現れないこともある。

ｃ　世界保健機関（WHO）の定義による医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有用かつ予測できる反応」とされている。

ｄ　医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	誤
４	誤	正	誤	正
５	正	誤	正	正

問６

アレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　アレルギーは、外用薬では引き起こされない。

ｂ　アレルギーは、薬理作用がない添加物では引き起こされない。

ｃ　医薬品にアレルギーを起こしたことがない人は、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合でも、アレルギーを生じることはない。

ｄ　アレルギーには体質的・遺伝的な要素はない。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	誤	正
２	誤	誤	正	誤
３	誤	正	誤	誤

４	正	誤	誤	誤
５	誤	誤	誤	誤

問７

食品と医薬品の相互作用に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）内には同じ字句が入る。

アルコールは、主として（　ａ　）で（　ｂ　）されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、（　ａ　）の（　ｂ　）機能が高まっていることが多い。その結果、（　ａ　）で（　ｂ　）されるアセトアミノフェンなどでは、通常よりも（　ｂ　）され（　ｃ　）なり、十分な薬効が得られなくなることがある。

	ａ	ｂ	ｃ
１	肝臓	代謝	やすく
２	肝臓	吸収	やすく
３	肝臓	代謝	にくく
４	腎臓	吸収	にくく
５	腎臓	代謝	やすく

問８

医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　一般用医薬品の場合、その使用を判断する主体が一般の生活者であることから、販売時における専門家の関与は不要である。

２　選択された医薬品が適切ではなく、症状が改善しないまま使用し続けている場合、適切な治療の機会を失うことにもつながりやすい。

３　便秘薬や解熱鎮痛薬などはその時の不快な症状を抑えるための医薬品であり、長期連用すれば、その症状を抑えていることで重篤な疾患の発見が遅れる可能性がある。

４　人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤り、副作用につながることがある。

問９

医薬品の不適正な使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品であっても習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがある。
ｂ　適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても乱用された場合には薬物依存を生じることがあるが、そこから離脱することは容易である。
ｃ　青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。
ｄ　医薬品の販売等に従事する専門家においては、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な者には慎重に対処する必要がある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	正	正	誤	正
３	正	誤	正	正
４	誤	正	正	正
５	正	正	正	正

問 10

医薬品と他の医薬品や食品との相互作用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

１　かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰（がいたん）薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することは少ない。
２　複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用されることが多いが、医薬品同士の相互作用に関して注意する必要はない。
３　外用薬や注射薬であれば、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性はない。
４　カフェインやビタミンＡ等のように、食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在するために、それらを含む医薬品と食品を一緒に服用すると過剰摂取となるものもある。

問 11

小児の医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。

b　保護者等に対しては、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明がなされることが重要である。

c　小児は血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しにくい。

d　小児は肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄（せつ）に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。

１（a、c）　２（b、c）　３（b、d）　４（a、d）

問 12

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断することは難しい。

b　厚生労働省の通知「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」においては、おおよその目安として６０歳以上を「高齢者」としている。

c　医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、その場合、誤嚥（えん）（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなるので注意が必要である。

d　高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 13

妊婦又は妊娠していると思われる女性への医薬品の使用等に関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

母体が医薬品を使用した場合に、（　a　）によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多い。一般用医薬品においても、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が（　b　）であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。

さらに、（　c　）含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものや、便秘薬のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

	a	b	c
1	血液－胎盤関門	困難	パントテン酸
2	血液－胎盤関門	困難	ビタミンA
3	血液－胎盤関門	容易	ビタミンA
4	血液－脳関門	困難	ビタミンA
5	血液－脳関門	容易	パントテン酸

問 14

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　プラセボ効果とは、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用による作用を生じることをいう。
2　プラセボ効果は、常に客観的に測定可能な変化として現れる。
3　プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、不都合なもの（副作用）しかない。
4　プラセボ効果を目的として医薬品が使用されるべきではない。

問 15

医薬品の品質に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　医薬品に配合されている成分（有効成分及び添加物成分）には、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化を起こしやすいものが多い。
ｂ　医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意される必要がある。
ｃ　医薬品は、適切な保管・陳列がなされれば、経時変化による品質の劣化を避けることができる。
ｄ　表示されている「使用期限」は、開封状態で保管された場合にも品質が保持される期限である。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問 16

適切な医薬品選択と受診勧奨に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　セルフメディケーションのための情報提供は必ずしも医薬品の販売に結びつけるのでなく、医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
２　一般用医薬品には、スポーツ競技におけるドーピングに該当する成分を含んだものはない。
３　一般用医薬品で対処可能な範囲は、医薬品を使用する人によって変わってくるものであり、乳幼児や妊婦等では、通常の成人の場合に比べ、その範囲は限られてくる。
４　一般用医薬品を使用して体調不良や軽度の症状等に対処した場合であって、一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。

問 17

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品の適正な使用のため必要な情報は、基本的に添付文書や製品表示に記載されているが、それらの記載は一般的・網羅的な内容となっているため、個々の購入者や使用者にとって、どの記載内容が当てはまり、どの注意書きに特に留意すべきなのか等について適切に理解することは必ずしも容易でない。

b　医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているか、などの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まるものである。

c　医薬品の販売に従事する専門家は、購入者側とのコミュニケーションが成立しがたい場合であっても、医薬品の使用状況に係る情報をできる限り引き出し、可能な情報提供を行っていくためのコミュニケーション技術を身につけるべきである。

d　医薬品の販売に従事する専門家においては、購入者等が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 18

サリドマイドに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　サリドマイド訴訟は、鎮咳去痰（がい　たん）薬として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに対する損害賠償訴訟である。

b　サリドマイドが摂取されると、互いに光学異性体にある*R*体と*S*体は体内で相互に転換するため、*R*体のサリドマイドを分離して製剤化しても催奇形性は避けられない。

c　サリドマイドによる薬害事件は、日本のみならず世界的にも問題となったため、市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

d　サリドマイドは、副作用として血管新生を促進する作用がある。

１（a、b）　　２（b、c）　　３（c、d）　　４（a、d）

問 19

スモン訴訟及びC型肝炎訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹（り）患したことに対する損害賠償訴訟である。

b　スモン訴訟などを契機として、医薬品の訴訟に係る迅速な救済を図るため、医薬品訴訟迅速救済制度が創設された。

c　C型肝炎訴訟は、出産や手術での大量出血などの際に特定のフィブリノゲン製剤や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

d　C型肝炎訴訟などを契機として取りまとめられた「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」を受け、医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問20

ＨＩＶ（ヒト免疫不全ウイルス）訴訟及びＣＪＤ（クロイツフェルト・ヤコブ病）訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　ＨＩＶ訴訟は、血友病患者が、ＨＩＶが混入した原料血漿（しょう）から製造されたインターフェロン製剤の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

２　ＨＩＶ訴訟の和解を踏まえ、国は、エイズ治療・研究開発センター及び拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の様々な取り組みを推進してきている。

３　ＣＪＤ訴訟は、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してＣＪＤに罹（り）患したことに対する損害賠償訴訟である。

４　ＣＪＤ訴訟の和解の後、ヒト乾燥硬膜の移植の有無を確認するための患者診療録の長期保存等の措置が講じられるようになった。

主な医薬品とその作用

問21

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　かぜの約８割はウイルスの感染が原因であり、それ以外に細菌の感染による場合もあるが、非感染性の要因によるものはない。

b　発熱や頭痛を伴って悪心・嘔吐（おう）や、下痢等の消化器症状が現れることもあるが、冬場にこれらの症状が現れた場合はかぜではなく、ウイルスが消化器に感染したことによるウイルス性胃腸炎である場合が多い。

c　かぜ薬は、ウイルスや細菌の増殖を抑えたり、ウイルスや細菌を体内から除去するものである。

d　かぜとよく似た症状が現れる疾患は多数あり、急激な発熱を伴う場合や、症状が４日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問22

かぜ薬（総合感冒薬）に配合される成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで炎症の発生を抑え、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として配合されている場合がある。また、凝固した血液を溶解されやすくする働きもある。

2　コデインリン酸塩水和物は、１２歳未満の小児には使用禁忌となっている。

3　粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンCや、疲労回復の作用のあるビタミンＢ１が配合されている場合がある。

4　エテンザミドは、サリチル酸系解熱鎮痛成分の一つであり、１５歳未満の小児で水痘（とう）（水疱瘡（ぼうそう））又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。

問23

かぜ（感冒）の症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　麦門冬湯（ばくもんどうとう）は、体力充実して、かぜのひきはじめで、寒気がして発熱、頭痛があり、咳（せき）が出て身体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる。

b　葛根湯（かっこんとう）は、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

c　麻黄湯（まおうとう）は、体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・吐きけなどのあるものの胃腸炎、かぜの中期から後期の症状に適すとされる。

d　半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）は、構成生薬としてカンゾウを含まない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問24

解熱鎮痛薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　イブプロフェンは、消化管に広範に炎症を生じる疾患である胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎又はクローン病の既往歴がある人では、それら疾患の再発を招くおそれがある。

b　イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用が比較的強く、抗炎症作用も強いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることはない。

c　アセトアミノフェンは、他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は少なく、空腹時に服用できる製品もあるが、食後の服用が推奨されている。

d　アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）が配合された一般用医薬品には、内服薬のほか、専ら小児の解熱に用いる坐（ざ）薬もある。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問25

眠気防止薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　眠気防止薬は、一時的に精神的な集中を必要とするときに、眠気や倦(けん)怠感を除去する目的で使用されるものである。
b　カフェインは、心筋を興奮させる作用があり、副作用として動悸(き)が現れることがある。
c　かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために眠気防止薬を使用することが推奨されている。
d　成長期の小児の発育には睡眠が重要であることから、小児用の眠気防止薬はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問26

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人を対象とするものではない。
b　アリルイソプロピルアセチル尿素は、抗ヒスタミン成分であり、脳内におけるヒスタミン刺激を低下させることで、眠気を促す。
c　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、妊娠中にしばしば生じる睡眠障害に用いられる。
d　ブロモバレリル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする作用があり、反復して摂取すると依存を生じることが知られている。

1（a、c）　2（b、c）　3（b、d）　4（a、d）

問27

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　３歳未満では、乗物酔いが起こることはほとんどないとされており、乗物酔い防止薬に３歳未満の乳幼児向けの製品はない。

b　スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓での代謝が遅いため、抗ヒスタミン成分等と比べて作用の持続時間は長い。

c　メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが遅く持続時間が長い。

d　ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問28

小児の疳及び小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状については、成長に伴って自然に治まるのが通常である。

2　小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。

3　小児の疳を適応症とする漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていなければ、生後３ヶ月未満の乳児にも使用することが可能である。

4　小児の疳を適応症とする主な漢方処方製剤としては、柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏のほか、小建中湯がある。

問29

鎮咳去痰薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　メチルエフェドリン塩酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用し、咳を抑える成分であり、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。

b　グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進することで、痰の切れを良くすることを目的として用いられる。

c　アドレナリン作動成分であるブロムヘキシンは、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。

d　クロルフェニラミンマレイン酸塩が配合されている場合、気道粘膜での粘液分泌を抑制することで痰が出にくくなることがあるため、痰の切れを良くしたい場合は併用に注意する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問30

口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）とその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

1　口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響が生じることはない。

2　噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射することが望ましい。

3　アズレンスルホン酸ナトリウムは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。

4　白虎加人参湯は、体力中等度以上で、熱感と口渇が強いものの喉の渇き、ほてり、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみに適すとされる。

問31

胃の薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として、ソファルコンが配合されている場合がある。

b　胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされるデヒドロコール酸は、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人ではかえって症状を悪化させるおそれがある。

c　弱った胃の働きを高めること（健胃）を目的に配合される生薬成分は、独特の味や香りを有しており、吐きけを起こすことがあるため、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用することが適当である。

d　安中散（あんちゅうさん）、人参湯（にんじんとう）（理中丸（りちゅうがん））、平胃散（へいいさん）、六君子湯（りっくんしとう）は、胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤であり、いずれも構成生薬としてカンゾウを含む。

１（a、b）　２（a、c）　３（b、d）　４（c、d）

問32

腸の薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　トリメブチンマレイン酸塩は、消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管の運動を調整する作用があるとされ、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。

b　次硝酸ビスマスは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂（れん））ことにより、腸粘膜を保護することを目的として配合されている場合がある。

c　ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉（しゃ）薬は、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いられることを目的としている。

d　タンニン酸ベルベリンは、収斂（れん）作用を持つタンニン酸と抗菌作用を持つベルベリンの化合物であり、消化管内ではタンニン酸とベルベリンに分かれて、それぞれ瀉（しゃ）下に働くことを期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問33

登録販売者が行う瀉(しゃ)下薬の販売時における説明に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　日本薬局方収載の加香ヒマシ油を販売する際に、防虫剤や殺鼠(そ)剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒には使用を避ける必要があることを説明した。
2　ビサコジルを有効成分として含む腸溶性製剤を販売する際に、胃内でビサコジルが溶け出すおそれがあるため、服用前後１時間以内は制酸成分を含む胃腸薬の服用や牛乳の摂取を避けるように説明した。
3　酸化マグネシウムを有効成分として含む製剤を販売する際に、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがあることを説明した。
4　センナを有効成分として含む製剤を販売する際に、妊婦では使用を避ける必要があるが、吸収された成分は乳汁中に移行しないため、母乳を与える女性では使用を避ける必要はないことを説明した。

問34

浣(かん)腸薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　浣(かん)腸薬は、繰り返し使用すると直腸の感受性が高まり、効果が強くなるため、連用しないこととされている。
b　ビサコジルは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
c　ソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
d　グリセリンが配合された浣(かん)腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告があり、そうした症状は体力の充実している人で特に現れやすく、体力の衰えている高齢者では現れにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問35

胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬と制酸薬の両方の目的で使用される場合もある。

b　メチルオクタトロピン臭化物は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣(けいれん)を鎮める作用を示す。

c　パパベリン塩酸塩は、抗コリン成分と異なり、胃液分泌を抑える作用は見出されず、眼圧を上昇させる作用はない。

d　アミノ安息香酸エチルが配合されている場合、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがあり、長期間にわたって漫然と使用することは避けることとされている。

１（a、b）　２（b、c）　３（c、d）　４（a、d）

問36

駆虫薬の配合成分とその作用との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(作用)
a	カイニン酸	―	回虫に痙攣(けいれん)を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させる。
b	パモ酸ピルビニウム	―	回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させる。
c	サントニン	―	蟯(ぎょう)虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
d	ピペラジンリン酸塩	―	アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯(ぎょう)虫の運動筋を麻痺(ひ)させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問37

強心薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して、生薬成分であるジャコウが用いられる。

b　微量で強い強心作用を示すセンソは、有効域が比較的狭い成分であり、一般用医薬品では、１日用量が５mg 以下となるよう用法・用量が定められている。

c　苓桂朮甘湯（りょうけいじゅつかんとう）は、主に利尿作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼としている。

d　強心薬は一般に、５～６日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因、例えば、呼吸器疾患、貧血、高血圧症、甲状腺機能の異常等のほか、精神神経系の疾患も考えられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問38

貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンＢ１２の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

b　貧血の症状がみられる以前から予防的に貧血用薬（鉄製剤）を使用することが適当である。

c　鉄製剤を服用すると便が黒くなることがあるが、服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。

d　ヘモグロビン産生に必要なビタミンＢ６や、正常な赤血球の形成に働く葉酸などが配合されている場合がある。

１（a、b）　２（b、c）　３（c、d）　４（a、d）

問39

コレステロール及び高コレステロール改善薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　血液中の高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）が多く、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。

b　ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

c　高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの痩身（そう）効果を目的とした医薬品である。

d　ビタミンＥは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺（しび）れ）の緩和等を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問40

循環器用薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ヘプロニカートは、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンＢ群とともに働く。

b　三黄瀉心湯（さんおうしゃしんとう）を使用している間は、瀉（しゃ）下薬の使用を避ける必要がある。

c　生薬成分であるコウカには、末梢の血行を促してうっ血を除く作用があるとされる。

d　ユビデカレノンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問41

痔の薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものの組み合わせはどれか。

a　シコンは、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して外用痔疾用薬に配合される。
b　トコフェロール酢酸エステルは、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、うっ血を改善する効果を期待して内用痔疾用薬に配合される。
c　エフェドリン塩酸塩は、血管拡張作用による止血効果を期待して外用痔疾用薬に配合される。
d　芎帰膠艾湯は、体力中等度以上で、大便がかたく、便秘傾向のあるものの痔核（いぼ痔）、切れ痔、便秘、軽度の脱肛に適すとされる。

1（a、b）　2（b、c）　3（c、d）　4（a、d）

問42

婦人薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　鎮静作用を期待して、モクツウが配合されている場合がある。
b　エチニルエストラジオールは、人工的に合成された女性ホルモンの一種であり、エストラジオールを補充するものである。
c　胃腸症状に対する効果を期待して、オウレンが配合されている場合がある。
d　漢方処方製剤である加味逍遙散は、構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問43

次の表は、ある一般用医薬品の外用痔疾用薬の注入軟膏に含まれている成分の一覧である。この医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

１個（２ｇ）中	
リドカイン	６０mg
プレドニゾロン酢酸エステル	１mg
トコフェロール酢酸エステル	５０mg
アラントイン	２０mg

ａ　局所の感染を防止することを目的として、殺菌消毒成分が配合されている。

ｂ　配合されているステロイド性抗炎症成分は、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

ｃ　局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせる成分が配合されている。

ｄ　肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、組織修復成分が配合されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	誤	誤	正
２	誤	誤	正	誤
３	誤	正	誤	正
４	正	誤	正	誤
５	誤	正	誤	誤

問44

月経不順、月経困難や月経困難症に適すとされる漢方処方製剤として、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　桃核承気湯
ｂ　温経湯
ｃ　茵蔯蒿湯
ｄ　猪苓湯

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問45

アレルギー（過敏反応）を生じる仕組みに関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）内には同じ字句が入る。

アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって（　a　）が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質であるヒスタミンやプロスタグランジン等の物質が遊離する。（　a　）から遊離したヒスタミンは、周囲の器官や組織の表面に分布する特定の（　b　）（受容体）と反応することで、（　c　）、血管透過性亢(こう)進等の作用を示す。

	a	b	c
1	脂肪細胞	タンパク質	血管拡張
2	脂肪細胞	炭水化物	血管収縮
3	肥満細胞	炭水化物	血管収縮
4	肥満細胞	タンパク質	血管収縮
5	肥満細胞	タンパク質	血管拡張

問46

眼科用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　コンドロイチン硫酸ナトリウムは、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激からの保護を目的として用いられる。

b　ホウ酸は、新陳代謝を促し、目の疲れの改善を目的として用いられる。

c　クロモグリク酸ナトリウムは、花粉、ハウスダスト（室内塵(じん)）等による目のアレルギー症状（結膜充血、痒(かゆ)み、かすみ、流涙、異物感）の緩和を目的として用いられる。

d　スルファメトキサゾールナトリウムは、ブドウ球菌や連鎖球菌による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼(けん)炎等の化膿(のう)性の症状の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問47

眼科用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　人工涙液は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。
ｂ　一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
ｃ　点眼薬は、結膜嚢（結膜で覆われた眼瞼（まぶた）の内側と眼球の間の空間）に適用するものであり、１滴の薬液量は結膜嚢の容積の５０％程度に設定されている。
ｄ　点眼後は、しばらくまばたきを繰り返して、薬液を結膜嚢内に行き渡らせるとよい。

１（ａ、ｂ）　２（ｂ、ｃ）　３（ｃ、ｄ）　４（ａ、ｄ）

問48

鼻炎用点鼻薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　ナファゾリン塩酸塩は、鼻粘膜を通っている血管を拡張させ、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として用いられる。
ｂ　グリチルリチン酸二カリウムは、鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として用いられる。
ｃ　ケトチフェンフマル酸塩は、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として用いられる。
ｄ　リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒みを抑えることを目的として用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問49

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　局所性の副作用として、適用部位に発疹（しん）・発赤、痒（かゆ）み等が現れることがある。これらの副作用は、外皮用薬が適応とする症状と区別することが難しい場合がある。

b　ヘパリン類似物質は、きり傷、擦り傷、掻（か）き傷等の創傷面からの出血を抑えることを目的として用いられる。

c　副腎皮質ホルモン（ステロイドホルモン）を配合した外皮用薬は、水痘（とう）（水疱瘡（ぼうそう））、みずむし、たむし等又は化膿（のう）している患部については症状を悪化させるおそれがあり、使用を避ける必要がある。

d　ハッカ油は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問50

第１欄の記述は、外皮用薬の配合成分に関するものである。（　　）の中に入れるべき字句は第２欄のどれか。

第１欄

（　　）は、皮膚糸状菌の細胞膜に作用して、その増殖・生存に必要な物質の輸送機能を妨げ、その増殖を抑える。

第２欄

1　ピロールニトリン
2　クロラムフェニコール
3　ウンデシレン酸
4　シクロピロクスオラミン
5　スルファジアジン

問51

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(配合成分)		(配合目的)
a	カルバゾクロム	―	炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える
b	フィトナジオン	―	血液の凝固機能を正常に保つ
c	ジブカイン塩酸塩	―	齲蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑える
d	銅クロロフィリンナトリウム	―	炎症を起こした歯周組織の修復を促すほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問52

口内炎及び口内炎用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　口内炎は口腔の粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
b　シコンは、ムラサキ科のムラサキの葉を基原とする生薬で、患部からの細菌感染を防止することを期待して口内炎用薬に用いられる。
c　口腔内局所に適用される外用薬のため、ステロイド性抗炎症成分が配合されていても長期の連用は問題ない。
d　アクリノールは、患部からの細菌感染を防止することを目的として配合される。

1（a、b）　2（b、c）　3（c、d）　4（a、d）

問53

ニコチン置換療法に使用される禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。

b　脳梗塞・脳出血等の急性期脳血管障害、重い心臓病等の基礎疾患がある人（３ヶ月以内の心筋梗塞発作がある人、重い狭心症や不整脈と診断された人）では、使用を避ける必要がある。

c　医薬品の販売等に従事する専門家においては、禁煙補助剤の使用により禁煙達成が困難なほどの重度の依存を生じている場合には、ニコチン依存症の治療を行う禁煙外来の受診を勧めることも考慮に入れるべきである。

d　咀嚼剤は、大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがあるため、１度に２個以上の使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問54

システインに関する記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（　　）内には同じ字句が入る。

システインは、髪や爪、肌などに存在する（　a　）の一種で、皮膚における（　b　）の生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にして（　b　）の排出を促す働き、また、（　c　）においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあるとされる。

	a	b	c
1	ビタミン	メラニン	肝臓
2	ビタミン	ケラチン	腎臓
3	アミノ酸	メラニン	肝臓
4	アミノ酸	ケラチン	肝臓
5	ビタミン	メラニン	腎臓

問 55

滋養強壮保健薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

１　ヘスペリジンは、軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。
２　ビタミンＢ６は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
３　インヨウカクは、強壮、血行促進、強精（性機能の亢（こう）進）等の作用を期待して用いられる。
４　カルシウムは、骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。

問 56

漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　一般の生活者においては、「漢方薬は作用が穏やかで、副作用が少ない」などという認識がなされていることがあるが、間質性肺炎や肝機能障害のような重篤な副作用が起きることがある。
ｂ　漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要であり、病態認識には虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。
ｃ　漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
ｄ　日本の漢方医学に基づく漢方薬は、現代中国で利用されている中医学に基づく中薬、韓国の韓医学に基づく韓方薬と考え方は同じで、区別されてはいない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問57

漢方処方製剤と適用となる症状・体質との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	(製剤)		(適用となる症状・体質)
a	大柴胡湯（だいさいことう）	―	体力虚弱で、元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠（けん）、病後・術後の衰弱、食欲不振、ねあせ、感冒
b	黄連解毒湯（おうれんげどくとう）	―	体力中等度以上で、のぼせぎみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸（き）、更年期障害、湿疹（しん）・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎
c	防風通聖散（ぼうふうつうしょうさん）	―	体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸（き）・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿（のう）症（副鼻腔炎）、湿疹（しん）・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、肥満症
d	清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）	―	体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢、嘔（おう）吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎

１（a、b）　２（b、c）　３（c、d）　４（a、d）

問58

消毒薬の取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アルカリ性の消毒薬が誤って目に入った場合は、直ちに中和剤を用いて中和することとされている。

b　日本薬局方に収載されているクレゾール石ケン液は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。

c　次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

d　ポリアルキルポリアミノエチルグリシン塩酸塩は、有機塩素系殺菌消毒成分であり、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問59

衛生害虫と殺虫剤・忌避剤及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1　ディートは、医薬品又は医薬部外品の忌避剤の有効成分として用いられ、最も効果的で、効果の持続性も高いとされている。
2　フェノトリンは、シラミの駆除を目的とする製品の場合、殺虫成分で唯一人体に直接用いられる。
3　ハエの防除の基本は、ウジの防除であり、ウジの防除法としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
4　ツツガムシは、ヒトへの吸血によって皮膚に発疹（しん）や痒（かゆ）みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。

問60

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　検査に用いる検体は、血液、尿、糞（ふん）便、鼻汁、唾液、涙液などである。
b　検査項目は、学術的な評価が確立しており、情報の提供により結果に対する適切な対応ができるものである。
c　検査薬は、対象とする生体物質を特異的に検出するように設計されているが、検体中の対象物質の濃度が極めて低い場合には、検出反応が起こらずに陰性の結果が出ることがある。
d　一般用検査薬は、一般の生活者が正しく用いて健康状態を把握し、速やかな受診につなげることで疾病を早期発見するためのものであり、遺伝性疾患の診断に関係するものもある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤